

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第13放送の概要（2013年11月30日放送）

パーソナリティ

さくら（安本久美子）
タロウ（佃 由晃）
なか（中嶋邦弘）

コアラさんの地域瓦版

かりん（妹尾優香）
アコ（三木文子）



ミキサー

門ちゃん（門田成延）
いっちゃん（一ノ瀬悟）

相談役

わだかん（和田幹司）

会計

小山俊則

（CM）武井咲です。献血ありがとうございますの声が届いています。わかきみーなちゃん8才より。献血ありがとう、命をわけてくれて。ありがとう。生きるという贈り物。日本赤十字社。Love in action。

（CM）今年創業 90 周年を迎えたエキストラコーヒーでは、来年 1 月 9・10・11 日の 3 日間、柳原えびすのお祭りに合わせて、売り出しを行います。コーヒー・紅茶の半額、お得な福袋もご用意、是非お立ち寄りください。

（CM）神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供するペリーヌタクシー様（電話 078-521-0046）の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー：藏野雅祥さん

藏野さんは、小学校は川池小学校（現、会下山小学校）、中学から大学は甲南ボーイでした。中学、高校は弓道部（和弓部）に所属。当時は部活で和弓の出来る学校は少なく、変わった事がしたくて弓道部を選んだ。部内の上下関係がはっきりしていたこと、勝つことが目的であったこと、試合の参加校が少ないので優勝しやすく、順位を落とさないためのプレッシャーがあり、厳しかった。学生時代のバイトは岡本のスパゲッティ屋で 10 年近く働いた。仕事は主に調理を担当、その経験で家でも料理している。喫茶店でも調理、ホールの仕事をしていた。他のバイトとしては、学生相手の格安ツアーのスタッフをしていた。夏の沖縄などでの現地スタッフとして受け入れの仕事や、冬のスキーツアーではバスの添乗員として働いた。同年代の学生が相手だったので楽しかった。

阪神大震災の当日は、会下山町の自宅で寝ていた。揺れている最中に周囲の壊れる音がうるさくて目覚めた。家は倒壊しなかったが全壊であった。家の前は松本通で東から西に火災が移動し、目の前まで火災が近づいた。震災直後は妹の借りていたマンションに避難していたが、その後は大阪の勤務先の寮に移った。このため神戸には月 1 回程度帰ってくる程度で、2 年後に父親の仕事を手伝うために神戸に帰って来た。

新長田駅前追悼行事「1.17KOBÉに灯りをいながた」（以下「灯り」という）について；

「灯り」は1999年にFMわいわいが始め、その後長田区社会福祉協議会の長谷部さんが実務の先頭に立って行ってきた。藏野さんとわだかんさんが出会ったのは、2000年頃「灯り」であった。藏野さんは仕事が多忙であるにも関わらず、「灯り」には非常に力を入れている。

神戸に帰ってきてから福祉関係に関わりを持ったのは、ホームヘルパーの養成学校を設立することを父親から言われ、実習場所の確保などのために社会福祉協議会にアプローチをしていたところ、長谷部さんに会い、協力するよう要請されたことからである。

「灯り」では、ろうそく作りを6、7か所の幼稚園、小・中学校の子供さんと一緒に行っている。藏野さん自身は、震災後しばらくの間は神戸に住んでおらず、大変さは知らなかったもので、震災そのものの思い入れはそれほど強くない。「灯り」は立ち上げ頃から関係し、中央区の行事とは違うという自負を持っている。集まった募金を基に民間で運営しているので、募金が集まらない状態になれば、必要とされていないという事なので「灯り」はやめることを考えている。今は来年再来年と続けられる募金が集まっている。実行委員会としては、新長田駅前広場に追悼の場を提供する事と考えており、パフォーマンスは特に必要であるとは考えていない。毎年追悼に来られる方を見ていると、1月17日だけ会える方も多く、皆さんが集まれる場所を提供することが役目と考えている。ろうそく作りでは、年配の方が一生懸命作ろうそくを作っているニュースが流れていたが、「灯り」では、子供達にろうそくを作るだけでなく、作る前に震災と減災、災害発生時の対処法、そして追悼の意味をお話するようにしており、この点も他の行事との大きな違いであると考えている。子供達に語り継ぐ事がまず大事だと考えている。



UD（ユニバーサルデザイン）研究会について；

ろうそく作りの前に行く藏野さんの子供たちへの語りかけは、先生以上に上手であるが、それは

UD（ユニバーサルデザイン）を子供達に知ってもらうための出前授業の経験に基づいている。UDは今は長田区役所まちづくり課が事務局であるが、立ち上げ当初前述の長谷部さんから、UD研究会メンバーには、行政だけでなく民間も参加する事が必要ということで参加依頼があり、森崎近畿タクシー社長、民生委員なども参加している。UD授業は小学4年生を対象に、UDを工夫した物をわたし、どのような点が考慮されているかを考えてもらう。社会には色々な人がおり、そのような人に思いをはせることがUDの原点と考えている。工夫だけをみつけるのではなく、それがどういう人にとって便利で、どういう人にとって不便かを考える事が大事である。福祉教育の延長線上のものと位置付けている。健康な生活を送っている人は、それが出来ない人が存在することを気付かないことがある。子供の頃は障害をもった方と知り合える事はなかった。震災後社会福祉協議会のメンバーと関わるようになったが、障害を持った方と話をするようになると、どのように話たらよいかわからなかった。普通にすればよい事を、特別な事と考えるのはおかしいことに気付いた。今の子供達は障害を持った方が街中に出てきて、自分達の存在をアピールし、生活しているので慣れているのでいいことである。自分だけが活着ているのではない事を理解してほしい。災害とUDは直結していないと考えている。しかしUDの考えが普及していると助かる人は増える。神戸の場合は災害があったのでUDが早く進んだと言える。

2. ミュージックコーナ：高田の一本松～生きてりゃきつといいことある（サスケ）

双子のデュオ、サスケ（カツとタカ）さんの歌で、岩手県陸前高田市の奇跡の一本松を歌ったもの。9月に陸前高田災害FMを訪問した時お話を伺った放送スタッフの阿部裕美さんのfacebookに、戸羽太市長が出演と書かれていたので、放送を聞いたところ、市長のリクエスト曲がこの曲でした。いい曲だと思ったので紹介します。



3. ふりかえり2013

さくら（安本久美子）：

兵庫高校同窓会（武陽会）では、2008年創立100周年事業としてプルタブ、アルミ缶を集め、車イスを贈るボランティア活動を始めた。一昨年はネットワークながたに1台お贈りし、理事長の石倉さんより丁寧な礼状を頂いた。今年は2台お贈り出来（計8台）たので来年は10台を目指して活動したい。みなさんとても喜んで頂けるのでやりがいがあります。

タロウ（佃 由晃）：

- ①2013年は妹尾さんをゆうかり放送委員会の新メンバーに迎えた。若いメンバーであり、今後の活躍を期待したい。
- ②2013年のゲストは、15回中8回が兵庫高校以外から。来年も色々な分野の方をゲストにお招きしたい。
- ③今年は2回目の東北訪問をしたが、被災地共通の課題は、震災前から過疎化が進んでいたのが震災で加速した。安定した仕事がないので将来に向けて生活設計が出来ないことである。しかし被災地には地域の復興のために頑張っている若い人（上山八幡宮禰宜 工藤真弓さん、リアスNPOサポートセンター鹿野順一さん）がおられることがわかった。来年も東北訪問をしたいが、福島県の放射線量の高い地域を訪問したいと思う。

なか（中嶋邦弘）：

人と未来防災センターの今年のテーマは、阪神淡路大震災時の意思決定に関わったキーマンに30年間は公開しないという前提でインタビューした記録がある。東日本大震災が起こり、その前に公開しておけば役だったと思われたので、公開することについて当事者と折衝を行い、55人について了解が得られた。公開された資料は人と未来防災センターの資料室で閲覧することが出来る。

災害の百科事典を作っていたが、完成間際に東日本大震災が起ったので津波に関する記述を追加した。しかし原発については記載されていないので、来年より追加作業を行い 2014 年 1 月 17 日を目指して完成させたい。

かりん（妹尾優香）：

7月にゲストの一人として出演し、9月に放送スタッフになり、今日を迎えていることに驚いている。

わだかん（和田幹司）：

藏野さんの事は「灯り」で古くから知っていたが、学生時代のバイトなどを知ることが出来た。8月放送ゲストの岩本緋嘉里さんの通う、神戸スポーツアート Cocoro 専門学校において、来年 1 月 26 日に開催予定の進級制作公演を見に行きたい。

もん（門田成延）：

さくらさんのボランティア活動の手伝いを続けていくこと、来年 1 月 17 日の「灯り」行事、募金箱作りのための竹切りも頑張りたい。

4. 地域瓦版

2014 年 1 月 17 日に、新長田駅前追悼行事「1.17KOB Eに灯りを i nながた」が行われます。当日 10 時からの準備作業、22 時からの後片付けを手伝って頂けるボランティアを募集しています。

デザインクリエイティブセンターKIITO では、来年 1 月 5 日～17 日に加川広重さんの巨大絵画展示を行います。東日本大震災からインスピレーションを得て描かれた作品（5.4m x 16.4m）です。宮城県生まれで被災者でもある加川さんの作品「雪に包まれる被災地」は、今年 3 月に KIITO でも展示されましたが、2 作目の「南三陸の黄金」も展示されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>